



LD親の会「けやき」機関紙

第97号

2012年3月発行

発行者・代表 三輪 覚子  
けやきホームページ URL

〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8  
<http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/>

## 平成24年度 総会のご案内

下記のように平成24年度LD親の会「けやき」の総会を開催いたします。  
万障お繰り合わせの上、ぜひご出席いただきますようご案内申し上げます。

日時	：平成24年4月21日（土）	13:00～16:30
場所	：くにたち福祉会館・大ホール・4階	
内容	：①会員更新・入会手続き	13:00～13:30
	②連絡・報告	13:30～13:45
	③総会議事	13:45～14:45
	④年間活動補助分担	14:45～15:00
	⑤会員交流	15:00～16:30

\*入会申込書・子どもの状況アンケートを  
忘れずご持参ください。

\*更新手続きでは、  
年会費（5,500円）を徴収いたします。

\*会員交流では、近況報告などしながら  
気軽に話し合いたいと思っています。

\*10:00～12:00  
ホール控え室で役員会を開催しています。



## 会長挨拶



けやき会員の皆様そして日頃よりご支援を賜ります多くの関係者の皆様、この一年間沢山のご協力をいただき、本当にありがとうございました。お陰様で平成23年度の活動をほぼ計画通りに開催することができました。

特に「交流会」として、自由に話ができるように設定した活動では、参加された会員の皆様の問題点や悩み・知りたい情報はそれぞれの個々によって多少違っていました。講師のアドバイスや先輩・仲間の経験談などを参考に取り入れて、学びあい、実践しあう機会を持ち合えたのではないかと思います。

また、11月講演会では会場定員満席の参加者があり、外部一般の方々に向けた活動として成果がありました。さらに自主グループの活動においても、各々工夫され、全体会ではできないような内容の濃いものばかりでした。これからもグループ活動が活発になるよう応援するとともに、新しいグループが立ち上がりやすい環境にもしていきたいと感じました。

すべての活動が、会員の皆様が力を合わせた結果のことと、感心しています。なかにはご都合がつかず参加できなかった方もいらっしゃいましたが、次年度はぜひ「けやき参加」を今からスケジュールに入れてください。一人では行き詰っていることも、だれかと顔を合わせ、話をする事で開いていくことがあると思います。子どもたちに「居場所」が必要なように、親の居場所としての「けやき」にしてください。

さて、総会準備をしながら、やはり一年前のあの日を思い出しております。3月とは言え、まだこんなに肌寒い時であったのかと、感慨深いものがあります。皆様にとってのこの一年間は、どのようなものでしたか？きっと力強く一步を踏み出された方が多いと思っています。「けやき」も新年度に踏み出すための大切な総会を4月21日に開催します。どうぞ皆様、顔を見せてください。

三輪覚子



# 1月交流会報告

日時 平成24年1月28日(土)

会場 東京都立多摩社会教育会館

テーマ 「成年後見制度と地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)について」

講師に小平市社会福祉協議会の藤原淳氏をお迎えして、勉強会を開催しました。判断能力が十分ではない人が、生活していく上でのセーフティーネットとして必要な事業を制度化し、11年前に「成年後見制度」が始まりました。福祉の制度が一方的に与えられるものだった時代から、自分で契約を結んで利用するようになってきたため、必要となってきた制度だということです。どちらの制度も事業も聞き慣れませんが、福祉の考え方も変わってきて、時代の要請といえるものかもしれません。昔は無かったとか難しそうだからと、私たちが避けてしまっただけで、せっかくあるセーフティーネットを生かせないことになってしまいます。

使ったほうがいいのか？と思ったら地域の社会福祉協議会にある権利擁護センターへ相談に行くといいそうです。一人ひとりケースが違うことから、マニュアルのようなものは作れないとか…。相談するときは、生活状況、判断能力、収入、支出、財産状況、主治医の確認、家族や親族の状況がわかるように伝える必要があるということです。藤原氏は、親が一番手こずりそうなところをズバリ教えてくださいました。例えば、この制度や事業を利用することを本人が納得、理解しにくい時は、困ったことが起きた場面で、現行犯で「こういうことで困っていますね」と指摘をするのが有効とのこと、また、親が言っても聞かない場合は、センターの職員から本人に話をしてもらおうと、すんなり納得してもらえそうでもあります。

本人の権利と財産を守るために、権利擁護センターの専門家や判断能力を診断する医師とよく相談しながら、これらの制度・事業を上手に使っていくことが大切だと思います。

- \*成年後見制度とは、認知症の方、知的障害のある方、精神障害のある方など判断能力が不十分な人の財産管理や身上監護を、代理権や同意権・取消権が付与された成年後見人等が行う仕組みとして始まった制度です。
- \*家庭裁判所が成年後見人等を選任する「法定後見」とあらかじめ本人が任意後見人を選ぶ「任意後見」があります。
- \*「法定後見」は判断能力の程度に応じて、「後見」「保佐」「補助」があり、また、「任意後見」は、本人の判断能力が十分なうちに、任意後見受任者と契約を結び、判断能力が不十分な状況になったときに備えるものです。

東京都福祉保険局のホームページより



<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

# 11月講演会報告

- ・日時：平成23年11月26日（土）
- ・会場：武蔵野公会堂
- ・テーマ 『どんな大人にしたいですか』 ～家庭や学校でできる二次障害予防の心得～

特別支援教育ネット代表及び宇部フロンティア大学臨床教授としてご活躍されている、小栗正幸先生を講師にお招きし「二次障害予防の心得」を中心にお話していただきました。

法務技官として少年鑑別所や少年院にご在職中から、退官されて今日に至るまで、本場に多くの青少年たちに接し、直接指導にあたられたご経験と沢山の事例をお持ちの方です。

小栗節とも言えるユーモア満載のお話に引き込まれながら、障害があるなしに関係なく「お子さんはすばらしいよ。大人が余裕をもって接しなさい。」という心得を説かれ、子を持つ親や指導の現場に携わる方々にとって、やんわりと然もすっかりエールをいただけたような講演会でした。



## 会場での質疑応答から



Q：自己理解（自己認知）ができている場合とそうでない場合とでは、二次障害のあらわれに関係がありますか？

A・特性からくる二次障害があることを理解してほしい。できないことを望むのではなく、マナーとして社会的な台詞（スキル）を覚えさせる必要はある。

- ・家の中でトラブル（暴力など）を避けるルールはその場から親がいなくなることに。
- ・障害名を告知するのは、そうすることでうまくいく場合のみとする。
- ・ゆがんでいないアスペルガーにするには、よく遊ぶこと。

Q：へりくつとしか思えない言葉の内容や態度を取る子どもへの対応は、どうしたらいいですか？

A・へりくつには、へりくつで対応する。（禅問答と言います）

- ・子どもの考えをユニークだととらえ、同感も否定もしない。
- ・「あっそう」程度にしておく。その子のこだわりを、こだわらない。

Q：反応の少ない子、おとなしいタイプの子への対応は、どうしたらいいですか？

A・イメージを持ちにくいという場合があるので、子どもにわかりやすいメモや絵等を活用してサポートするといいい。

- ・忘れることがあってもメモがあるから大丈夫という安心感をもたせることも大切。

Q：万引きをして、親がお金をくれないから等と理由を述べる子について対応はどうしたらいいですか？

A・万引きに理由はいらない。刑法の窃盗罪であることを伝え、断固取り合わない。

Q：やる気がなく、勉強が基本的にできないので、テストにも影響している子について対応はどうしたらいいですか？

A・勉強が嫌いになっている子には、長時間の補習は逆効果となる。10分補習から始める。

- ・3週間程度を1クールとなるような、アカデミックトレーニングを取り入れるとよい。
- ・学力を高めるやり方と、テストの点を取ることにはちがう指導がある。
- ・やる気のない場合は、勉強に振り返ってもらうことからはじめ、本人のできるころからやること。

Q：不良交友の心配がある場合、親はどこまでかかわれますか？

A・場合によっては、友だちを作らせないということも大切。本人が困っている場面からイメージを膨らませて、断る台詞（スキル）を教えることも必要。

Q：生活の質を高めるためのアドバイスをお願いします。

A・子どもが小学校の低学年までなら、いい趣味を持たせること。同好会等に親子一緒に参加して、本人に合うものを選ぶようにするといい。

- ・その際、すぐに友だちを作ろうとしない。まずは親同士が仲良くなること。
- ・中学生以降では親の役割は終わりと思える。その代わりに、何時帰って来ても安心できる場所を作っておくこと。他人（教師や支援者）から学ぶという年齢になる。

Q：二次障害の初期について教えてください。盗癖、爪噛み等の癖があります。

A・習癖行動（爪噛み・チック）では、自己刺激的に行っている場合もあるので、二次障害とはいええないことがある。ただし、本人が気づかないまま、周囲が過敏に反応することで、本人のストレスとなり、二次障害へと進むこともある。

- ・本人に気づかせること。注意するだけでは改善しないことが多い。

Q：「また心にもないことを・・・」以外にも使える言葉を教えてください。

A・言うべきことは言わなければならないが、相手に伝わるように言うスキルを身につけることが大切。

- ・「君もよくわかっているように・・・」という一言を頭につけてから話し始めると、本人に入っていくやすい場合がある。

## 参加者の感想



◇知的に問題はないのですが、学校生活や親との関係がかなりギクシャクしていました。昨年ADHDとわかり薬を飲み指導を受け、このような勉強会にも参加するようになり、少しずつ変わってきている事を感じています。が、悩むことが多い日々の中、今回の小栗先生のお話は、今後の子どもの対応の場で必ず役に立つ考えや言葉を教えていただけたと思います。出口の見えないトンネルに入ったような日々に、光が見えたような気がします。

- ◇初めから終わりまで本当に楽しく聞くことができ、すぐ実践したくなる内容でした。来年中学への進学を控えており、思春期に向けて親としての心構えのヒントをいただくことができました。
- ◇1年の2学期頃から学校カウンセラーを通じ、2年より特別支援学級に通級しながら現在（4年）に至っています。3年に進級した時に環境不適合をおこしましたが、現在は専門医に通院しながら学校生活を落ち着いて送れるようになってきました。片親（男）という環境で成長していく中、祖母の私が、今後どのように対応していったらいいのか、学びたく参加しました。肯定的フィードバックのところでサポートするというお話は、心にしみました。
- ◇とても具体的なお話で、是非試してみようと思いました。理不尽な言葉や行動について理解できない事が多かったのですが、解説していただいてとても助かりました。とにかく楽しくて、もっとお話を聞きたかったです。
- ◇親として、また保育者として学ぶことが多かったです。保育者として幼児教育（保育）のやり方が特別支援と同じだと感じています。すでに二次障害をひき起こした息子への対応を、親として実際に自分が保育で行なっていることを、思い出しやっつけばよいと気付きました。
- ◇先生のお話が具体的でわかりやすく助かります。小4の女子ですが、思いが通らなかったり兄弟が思うような反応を示さないと怒ってしまい、二階の自室でヒートダウンして次につなげています。大騒ぎしたのに普通の顔をしてもどってきます。いつものことなので、あまり気になりませんが納得できました。
- ◇お話の中で何度か「あの時はああ言えば良かったんだ」と思い当たる事がありました。冷静にと思いつつも、相手のペースに巻き込まれていたと反省しました。今日はお父様方の参加が多かったので、母親以外に父親の役割（役目）をご提示いただくと良いと思いました。



- ◇ユーモアたっぷりにご経験を踏まえて、わかりやすいお話だったので参考になりました。サポートとカウンセリングの違いが印象に残りましたが、学校の現場ではカウンセリングが主であり、子どもたちにとっては苦しいだろうと感じました。
- ◇一口にコミュニケーションと言っても、奥深いものだとつくづく感じました。「言葉を変えないで繰り返す」セラピーとサポートでのやりとりなど、「言葉」の大切さがコミュニケーションの質を決めるということを勉強させられました。生々しい体験を通しての話から、子どもへの対応も遅くはなく、悩まなくていいんだと希望がわいてきました。
- ◇今まで「どうしたら？」と考えていたことの答えを見つけることができました。以前、中学校の教師をしていた時に、生徒指導上の問題点といわれる根っこに発達の凸凹があることを感じ、特別支援教育の勉強を始めましたが、まだまだ中学校の特別支援教育への理解は、従前の「生徒指導」に打ち消されている学校が多いように思います。お話を伺い、二次障害の子どもたちが増えないよう、自分の立場としてがんばっていく意欲が出てきました。
- ◇「真に受けない」ということ、とても参考になりました。今まで、どうも反論や説論でお子さんを何とかしよう、させようと思っていました。屁理屈対応もおもしろそうです。これから、子どもが（良い方へ？）動く屁理屈を考えていきたいと楽しみになりました。
- ◇決め付け行動のマネジメントとして、目的は支援にあるのだから、受容は×という教えは目から鱗でした。子どもとの対応は、常にカウンセリングの視点で傾聴し、受容一辺倒でした。理不尽な言動への対処でも「また心にもないことを」と繰り返し応えたいと思います。具体的な事例をあげながら、望ましい対応のあり方等説明していたき、たくさんの学びが得られました。

※講演後、聴講された方々からたくさんの感想をお寄せいただきました。紙面の都合上、全て掲載できませんでしたのでご了承ください。ご協力ありがとうございました。

#### 【小栗先生の著書紹介】

- ◆「発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ」 ぎょうせい
- ◆「行為障害と非行のことがわかる本」 講談社

#### ミニ・インフォメーション

\*さいきまこさん(けやき・ボランティア会員)の作品が掲載されています。

#### 『光の咲く日』 月刊・フォアミセス・4月号

特集「子ども — 私の宝物 —」  
感動大長編カラー 100ページ



## ■自主グループ報告■



# つくし

## 平成23年度活動報告

今年度は、特にテーマを決めなくて、参加者からの必要に応じた話題を基に、2ヵ月に一度の集まりを持ち、話し合ってきました。

「特別支援教育」が進められてから、発達障害が疑われる幼児への早期療育など、発達障害への理解と支援が進んでいます。そして「就学相談」について、親は、これまでは、子どもの就学先が「振り分けられる」負の意識から、就学支援シート活用など「子どもへの支援につながる」正の認識へと変わりつつあることは、親たちの言葉から実感できます。

小・中学校では、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーでの支援体制も整いました。しかし、学習の習得に困難を抱えている学習障害の子どもたちは、教室でどのような気持ちで過ごしているのでしょうか？

勉強が分からないという具体的な訴えにたいしては、特に思春期を迎える小学校高学年から中学生への子どもたちに対しては、どのような取り組みがあるのでしょうか？

つくしの交流会で語られる、勉強が分からないだけではなく、心の発達にも大きく影響を及ぼす状態を避けるために、いまだに親が毎日子どもたちの家庭学習を必死で支え、学校での補習を行っているという様子は、一昔前の我が子（現在24才）の小学生の頃と殆ど変わらないと感じました。そこで、9月には「東京都特別支援教育推進計画（案）の骨子」に対して、意見提出も行いました。

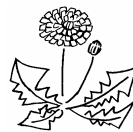
親たちは、勉強が分かりたいと願う我が子に、解りやすい学習方法があるのか、どこか良い家庭教師を知っているか等の問いに対して、これまでの体験を通した親たちの情報を知ることができるつくしは、同じ思いを抱く親たちのよい交流の場になっています。

2月集まりで今年度を振り返り、24年度につくしの活動には、思春期に向かう子どもへの具体的な関わり方のスキルである『ペアレント・トレーニング』を学習したいという話しも出されました。

《次回、つくし交流会のお知らせ》

日時：平成24年5月12日（土）10：00～12：00

場所：国分寺労政会館・第二集会室



瀧澤



## ■自主グループ報告■

### ポーレポーレ

#### 平成23年度活動報告

今年度は10人のメンバーが月に1回（基本第2日曜日）国立市の施設を拠点として活動しました。

- 4月10日 室内活動（近況報告・前半の活動計画・ゲーム）
- 5月 8日 調理（焼き飯・たこ焼き）
- 6月 5日 野球観戦（神宮球場）
- 7月10日 ナムコナンジャタウン
- 8月14日 バーベキュー（昭和記念公園）この日は親も参加
- 9月11日 室内活動（近況報告・後半の活動計画・カードゲーム）
- 10月 9日 室内活動（近況報告・人生ゲーム）
- 11月13日 室内活動（近況報告）、散策（国分寺駅まで）
- 12月18日 ボーリング、カラオケ
- 1月 8日 室内活動（近況報告・カードゲーム）
- 2月12日 江戸東京博物館
- 3月18日 調理



ポーレポーレも12年が経ちました。これだけの間活動してきた訳ですから、ボランティアさんのお話を伺っていると（お互いに節度を保ちつつも）最近ではボランティアさんの側からの、メンバーに対してボランティアしているという意識の垣根が低くなってきているようです。もちろんメンバーたちも、ボランティアの〇〇さんというより、ずっと一緒にポーレポーレの活動をやってきた〇〇さんという形で受け止めていると思います。

3月の卒業に伴い、新年度からはメンバーの中に「学生」がいなくなります。この先もこれまで同様、みんながポーレポーレを無理なく続けられるように、活動の方法が少しずつ変化していくかもしれません。ポーレポーレには、いつ参加しても必ず居場所があるという安心感があります。これだけは、これからもずっと変わらないでいて欲しいです。

赤野

### おやじの会

#### 平成23年度活動報告

1月26日(土)、吉祥寺の武蔵野公会堂で開催された例会「小栗正幸氏の講演会」後に近くの居酒屋で講師を囲んで懇親会を開催しました。会員以外の参加もあり個人的なことも含め懇親会ならではの幅広い話ができて大変有意義な会となりました。少ないメンバーではありますが、今後もおやじの会ならではの活動を通して子供の理解・支援を深めて行きたいと考えております。

藤本

# キャリア教育講座 Wing

平成23年度活動報告

今年度の活動は、3月に発行した「親の企画運営するキャリア教育」の報告書発送から始まりました。200ページにわたる冊子になりましたが、LD学会等でも好評で様々な方から感想をいただいています。

## ◇主な活動

- \* 就労に対する親の知識習得のための「親講座」
- \* 4年目の取り組みの「親子講座」
- \* 講演会・シンポジウム（新宿 NS ビル）  
「発達障害者の就労面における現状と課題」
- \* 研修会・相談会（八王子市南大沢文化会館）  
「発達障害者のライフステージを考える」

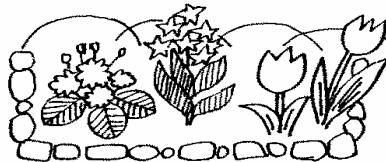
はじめは、どれも慣れない事で戸惑いもありましたが、それぞれの役割を充分にこなすことが出来、100人の参加者も混乱することなく、感想アンケートも沢山集まり、よい評価をいただきました。

この一年は、神奈川県立保健福祉大学の松為教授、ボランティアの方々にも多くのアドバイス、講演会等の企画や司会、講座、教材プロジェクトに参加していただき、大変お世話になりました。

Wingの目標は、地域の支援の輪の中で、親が活動する事を通して学んでいくことにあります。沢山の親支援に感謝しながら、新年度も積極的な活動と共に仲間を増やし、キャリア教育の為に皆で力を合わせて進んでいきたいと思えます。

## ◇「親講座」新年度の実施日程

- \* 4月 8日（日）
- \* 4月15日（日）
- \* 5月13日（日）
- \* 5月20日（日）



## ◇「親子講座」も募集中です。(対象学年：中学3年生～高校3年生まで)

- \* 申し込みお問い合わせは、[wing.carrier@gmail.com](mailto:wing.carrier@gmail.com) まで。

- 助成金** ○教材プロジェクト：日本財団、  
○講演会・研修会：オラクル有志の会、からいただきました。

新堀



# 散歩道



## サイクリング

二年前からロード自転車に乗っており、今までに4700Km走った。普段は多摩川自転車道を走るが、時には荒川自転車道経由で都心へ出たり、入間、川越、奥多摩方面へと一般道を走る。若い頃はオートバイに乗っていたが、ペダルを漕ぐことで進む自転車が今の自分にはちょうど良い。スピードはマラソン選手より多少早い程度であり、しばしば多くのサイクリストに追い抜かれるが、マイペースでの走行を楽しんでいる。

私にとって多摩川自転車道はホームロードであるが、自宅のある小平から昭島、立川、あるいは国立と、気の向いた経路で多摩川まで出る。自転車道は堤防の上であり、眼下に河川敷でスポーツに興ずる人や川辺で遊ぶ人を眺めながら走ることができる。多摩川上流の羽村から河口の羽田まで自転車道は続いており、羽村から下ってくると、川沿いの町並み、暮らしの雰囲気、川の流れ、河川敷の自然、山の景色など、東京のさまざまな変化を感じることができる。一般道と違って車に気を遣う必要はないが、ランニングや散歩をする人も多く、特に休日は賑わうので周りに注意しての走行が必要となる。自転車を停めて、子どもたちの野球を眺めたり、河川敷の芝生に寝転んで青空を眺めたりもするが、遠い少年の頃の記憶が蘇る。先日は支流の浅川沿いを走り、10年ほど前にポーレポーレで参加した筏レースを思い出し、夏の暑い中浅川を一緒に下った子どもたちに思いを馳せた。

※機関紙「けやき」では、会員の方々に自由に語っていた  
だく欄として、「散歩道」とい  
う当コラムを設けています。  
趣味のこと、読んだ本や見た  
映画の感想、日頃感じている  
ことなど、どしどしご投稿を  
お待ちしております。

寒かった冬が終わり、春がやってきた。隣家の奥さんが言うところの宇宙人の格好（ヘルメット）で、多摩周辺の各地に出かけるつもりである。また、一昨年は瀬戸内海のしまなみ海道、昨年は南房総へ輪行したが、電車に乗っての遠出も楽しみたい。

M. T



# お知らせコーナー

## 第11回 全国LD親の会 公開フォーラム 開催のお知らせ

日時

平成24年6月17日(日) 10:00~16:40

会場

国立オリンピック記念・青少年総合センター  
カルチャー棟(1F)小ホール

テーマ

「特別支援教育と家族支援」

～発達障害のある子どもへの支援の充実に向けて～



## 「けやき」では年間を通して新規入会を受付けています

\*入会金 2000円

\*年会費 5500円

総会、例会、役員会の会場に直接お出かけください。

詳しくは、けやきホームページ <http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/>  
にてご案内していますのでご覧ください。

\*賛助会員、通信会員、ボランティア会員も募集しています。



### 編集後記

我家で飼っている猫の中に、双子のように仲の良い姉妹の猫がいる。ところがこの姉妹、今もって全くといっていいほど家の中に入ろうとしない。どうやら、ケージに押し込められた挙げ句、なかば強制的に避妊手術をさせられた、3年前の経験がトラウマになっているらしいのだ。冬の寒さは厳しいだろうと思い、彼女たちのために専用の小屋をダンボール箱で作り、かつて犬が使っていた小屋の中に置いてあげた。すると、その晩から二匹で仲良くぬくぬくと身を寄せ合いながら入るようになった。餌の時間になるとすり寄ってきて、しっかり触らせたり撫でさせたりしてくれるのだが、それ以外は私



や家内に殆ど近付こうとしない。姿をただけで、さっさと逃げ出すこともある。いずれはそのうち家の中にも入ってくれるだろうと思っはいるのだが…まあ、じっくり待つことにしましょう。 K.M